

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 24 日現在

機関番号：23903

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24530174

研究課題名(和文) 冷戦期の米欧関係とバチカン外交－国際政治における宗教の役割－

研究課題名(英文) United States, the Western Europe and the Vatican during the Cold War-role of religion for international politics

研究代表者

松本 佐保 (Matsumoto, Saho)

名古屋市立大学・人間文化研究科・教授

研究者番号：40326161

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：冷戦期バチカンが国際政治に与えた影響、特に冷戦期以前から反共産主義をかかげていたバチカンが、米国や欧州の冷戦のイデオロギーの抛り所となったかどうか、特に米国による欧州の共産主義や共産党への介入などについてバチカンがどの様に関わったかを明らかにした。バチカン秘密文書館や国務省の文書館の史料や米国議会図書館の米大統領の個人特使としてバチカンに派遣されたマイロン・テーラーの手紙などの資料調査を行った。研究成果として単著『バチカン近現代史』を2013年に出版、またその他の数点の論文の刊行や学会発表で、冷戦時代以前からの一貫して反共産主義のバチカンが冷戦時代に構築した米国との密接な関係を著した。

研究成果の概要(英文)：During the Cold War the Vatican had played an important role to be anti-communism which had influenced upon the Western Powers, such as United States and the Western Europe. The fact is that the Vatican had been anti-communism before the First World War, and then after the Second World War, the role of the Vatican had become even more important as the Cold War ideology. Through my reserach project using the Vatican Archives, the National Archives in UK and US, and the private paper at the US Library of Congress which include Myron Taylor's paper, who was the US Presidents' private envoy to the Vatican during the Second World War and early Cold War, it is clear that a rapprochement between the Vatican and United States had been a crucial phese of history of the Cold War. I have published a monograph paperback book entitled History of the Vatican during Modern and Present day and its Global Political Impact, and it has been well received and reviewed by the major newspapers.

研究分野：国際政治史

キーワード：冷戦 バチカン 米欧関係 宗教 反共産主義 イデオロギー

1. 研究開始当初の背景

冷戦期の米欧関係とパチカン外交については、近年欧米の学会では少しずつ研究成果が発表されつつあるが、日本の学会では殆ど注目されてこなかった分野であった。欧米におけるこれら研究を踏まえ、パチカン秘密文書館やパチカン国務省文書館での史料閲覧の許可を得た申請者が、これら史料を使用してパチカンのグローバルなネットワークによる国際政治へのインパクトを明らかにすることが出来る可能性があった。またイタリアやイギリスの外務省の史料、米国の国務長の史料、そして米国議会図書館にあるトルーマン大統領の個人特使としてパチカンに派遣されたマイロン・テラーのプライベート・ペーパーなどの史料の在り処については、欧米の研究者との交流と情報交換によってあたりがついていた。また米国のカトリックの聖職者で研究者でもあるボストン・カトリック大学のチャールズ・ガレガ氏を通じて米国のカトリック・コミュニティへのインタビューなどの接触の可能性があった。

上記の様な閲覧可能な史料の状況や研究者や聖職者との繋がりによって本研究を開始できる背景が十分にあった。

2. 研究の目的

欧州統合研究においてその共有されているキリスト教の理念が重要であると言われながらも、パチカンなどのキリスト教の組織と欧州政治、また米国も含んだキリスト教的なイデオロギーと西側である欧州と米国の政治や外交との関係を明らかにした研究はあまり日本では行われていない。そこで冷戦期のパチカンが国際政治に与えた影響力、特に冷戦期以前から反共産主義をかかげていたパチカンが、米国や欧州の冷戦のイデオロギーの拠り所となったかどうか、特に米国による欧州の共産主義や共産党への介入などについてパチカンがどの様に関わっていたかを明らかにし、また冷戦終結にあたってパチカンが果たした役割を明かにすることが研究の目的であった。

3. 研究の方法

パチカンの様な宗教的でいわゆる国民国家ではない組織の外交政策を研究するにあたって必ずしも公式な形で行われず、非公式なチャンネルによる外交関係を明らかにすることが重要な研究方法である。特に米国はプロテスタント国であることからカトリックの組織であるパチカンとは公式な外交関係がなく、非公式な外交関係であった。しかし非公式な関係であるからこそ、公式な関係では出来ない、様々な外交交渉が可能であ

ったのである。そうした水面下での交渉こそ時には重要な政治的決定が行われる過程となることがしばしばあったのである。

パチカン秘密文書館や国務省の文書館の史料、イタリアやイギリス外務省の史料、米国国務省の史料、そして米国議会図書館にあるトルーマン大統領の個人特使としてパチカンに派遣されたマイロン・テラーのプライベート・ペーパーなどの史料調査によって研究の目的を明らかにした。ボストンのカトリックの聖職者や米国のカトリック・コミュニティへのインタビュー、また日本のカトリックの聖職者などへの聞き取り調査により、冷戦時代のパチカンの共産圏での活動とその実態が明らかになった。

イタリア・ローマにあるキリスト教民主党研究所所蔵の政治家の史料も特別許可を得て閲覧することが出来た。

4. 研究成果

単著『パチカン近現代史』を2013年に出版、これは冷戦時代以前からのパチカン扱っているが歴史的にみてパチカンが一貫して反共産主義であり、これは冷戦時代になって米国との密接は関係構築によって、西側最大の共産党をほこったイタリアのその政権入り阻止のために強固な協力関係があったことが明らかになった。米国だけでなく欧州のイギリスの様な非カトリック国も、冷戦時代のパチカンの反共産主義としての役割に期待しており、イタリアが万が一共産党政権になったらなら NATO から脱退する可能性があり、それはヨーロッパの安全保障を脅かすとして懸念の要因であった。そのため英米がパチカンと協力することが冷戦時代に重要であったことがわかった。冷戦時代の西ヨーロッパにおけるパチカンの役割は、英米の期待のもとにあり、またソ連の共産党権益下にある東ヨーロッパ、特にカトリック国であるポーランドやハンガリーでのカトリック教会による情報収集や民主化運動は、英米にとっても重要な情報源であり、また東側の民主化運動を支援する英米の思惑に合致していた。これらの交渉はカトリック国でない米国やイギリスによる非公式な外交交渉によって可能であった面も強調した。パチカンは軍隊を持たないが、それが英米との協力によって冷戦という戦いに勝利することが出来たと言っても過言ではない。

他の業績ではパチカンと深い関わりを持ったキリスト教民主党が、その内政や戦後処理の問題に関与したか、イタリアは敗戦国であったにもかかわらず、日本やドイツの様な国際的な戦争裁判が行われなかった理由を明らかにした。

冷戦時代に重要であった反共産主義のイデオロギーを担ったパチカンや宗教の問題だけでなく、他のソフト・パワーである広報

外交や文化外交、さらにはプロパガンダについて明らかにした論文も発表した。プロパガンダの語源は元々バチカンの宣教省の名前に由来することからも、宗教と文化というソフト・パワーが外交や国際関係に与えた影響を明らかにすることが出来た。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

松本佐保著「イタリアの戦後処理—半世紀も封印された戦争犯罪の記憶—」『外交』時事通信出版局 Vol.29 2015年1月31日、42 - 47頁

松本佐保著「イギリス外交における文化的プロパガンダの考察、1908～1956年」『国際政治』第173号、2013年6月、112 - 126頁

松本佐保著「英国とヴァチカンのアイルランド問題をめぐる外交問題、1858～1870年」『ヨーロッパ・グローバリゼーションの歴史的位相』勉誠社、2013年、6月、130～141頁

〔学会発表〕(計5件)

松本佐保「冷戦史研究への新視点 グラディオ作戦とイタリア」(国際政治学会、福岡国際会議場、2014年11月)

Saho Matsumoto, Giulio Andreotti, Italy and the Cold War, British International History Group, September 2014, London School of Economic

松本佐保「バチカンと国際政治」(帝国史研究会、武蔵大学、2014年7月)

松本佐保「カトリック総本山、バチカンの秘密 教皇の歴史的交代劇をめぐって—」兵庫県仁川学院、2014年5月

Saho Matsumoto, Vatican in the global context, British International History, September 2013, University of West of England, Bristol

〔図書〕(計2件)

共著:

『世界の蒐集—アジアをめぐる博物館・博覧会・海外旅行—』福井憲彦監修・伊藤真美子・松村弘一編、第二部第二章: 松本佐保著「近代国家と博物館・美術館」、山川出版社、2014年

共著:

『コモンウェルスとは何か—ポスト帝国時代のソフト・パワー—』山本正・細川道久編著、第八章: 松本佐保著「ラウンド・テーブル運動とコモンウェルス」、ミネルヴァ書房、2014年

単著:

松本佐保著『バチカン近現代史』単著、中公新書、2013年6月(7月14日付け『読売新聞』文化欄11頁で田所昌幸氏が書評、その他『朝日新聞』『中日新聞』『週刊朝日』に書評掲載、9月16日付け『読売新聞』にはインタビュー記事掲載)

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松本佐保 (Saho Matsumoto)
名古屋市立大学大学院・
人間文化研究科・教授

研究者番号：4 0 3 2 6 1 6 1

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：